

「菊池市立図書館が取り組む多文化サービス」

～誰一人取り残さない多文化サービスを目指して～

「令和3年度九州・沖縄ブロック多文化共生地域会議」

令和4年1月28日

菊池市立図書館

どこの国出身の外国人が多く住んでいるのか

- 1 ベトナム (461人)
- 2 フィリピン (133人)
- 3 中国 (47人)
- 4 タイ (27人)
- 5 インドネシア (24人)
- 6 ミャンマー (19人)
- 7 韓国 (18人)
- 8 アメリカ合衆国 (10人)
- 9 イギリス (9人)
- 10 モンゴル (6人)

※以上5名以上が来ている国々。 (全部で23か国から)

アジア圏が大多数

(1) 企業のアンケートを実施(雇用主)

① 困っていることは？

- ・コミュニケーションの難しさ

② 日常生活に必要な支援は？

- ・日本語の学習支援
- ・日本語を学んだり、日本人と交流する機会が必要

③ 日本語能力を伸ばすためには？

- ・日本語での積極的交流
- ・定期的、継続的な日本語学習の場所と時間の確保
- ・教育や会話や親睦会などが必要


困ってることは？

- ①日本の文化や習慣の違い(22名)
- ②趣味や遊びの時間や場所がない(21名)
言葉が通じないこと(21名)
- ③住むところのこと(20名)
物の値段が高い(20名)

助けてほしいことは？

- ①地震や火事のお知らせがほしい(29名)
- ②日本人と仲良くなる行事(22名)
分りやすい日本語のニュースを聞きたい(22名)
日本人の相談相手がいない(22名)

外国人のニーズに合わせて何を提供するか

- (1) 情報支援活動・・・「やさしいにほんご」の活用
 - (2) 生活支援活動・・・連携支援体制づくり
 - (3) 交流支援活動・・・多文化共生イベント
 - (4) 学習支援活動・・・「にほんご教室」の実施
- 

やさしい日本語普及啓発のために

図書館の多文化サービスが、自治体における重要な多文化共生政策の一つであることを、他部署の職員にも積極的に紹介していく必要があるため職員向け研修会を開催。また、市民向けの研修会も開催した。



学校の多文化理解の授業のため、外国人との交流のつなぎ役



行政の役割から市民協働の役割へ

ボランティアは年代も幅広く、教職を退職された方から高校生まで。

日本語の素晴らしさを見直す機会ともなり、日本語教師を目指す方も出てきている。

参加することによって、気づきが生まれ、ボランティアから新たなアイデアがもたらされている。

そして何より信頼関係とともに交流が始まっている。

外国人の様々な悩みにも、解決への一歩として、対応できつつある。

そしてコミュニティーの基礎を共に築いていきたい。